学校番号	３０８

平成 31 年度　公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	最新現代社会　新訂版　　（実教出版株式会社）						
副教材等	最新現代社会　新訂版　演習ノート　　（実教出版株式会社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・現代社会のさまざまな事象について幅広い関心を持つ。
・学問的な事実に基づく、着実な基礎知識を習得する。
・多くの社会的事象について、身近な事実からとらえる視点を持つ。
・グループワークなどにより、他人の意見を傾聴・尊重する力や、適切な判断力を高める。

2　学習の到達目標

・現代における社会的事象に対する関心をもたせ、多様な角度から考えさせる。
・現代社会と人間について、広い視野に立って理解を深める。
・現代社会の基本的な問題について、主体的に考え、公正に判断する力や、人間としての在り方や生き方について考える力の基礎を養う。
・自らの個性を発揮し、文化・福祉の向上、発展に貢献する能力と、平和で民主的な社会生活の実現、推進に向けて主体的に参加・協力する態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と、平和で民主的な社会の実現に向け参加、協力する態度を身につけ、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	授業プリント 副教材 授業での発言	定期考査	副教材 定期考査	副教材 定期考査
	［主題学習］ グループワーク	［主題学習］ ワークシート	［主題学習］ グループワーク ワークシート	［主題学習］ グループワーク

上に示す観点に基づき、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期前半	第2部　現代の社会と人間	1　青年期と自己の形成 第１章 自分らしく生きる １．青年期とは ２．自己形成の課題 ３．職業生活と社会参加 第２章 人間としてよく生きる １．哲学と人間 ２．宗教と人間 ３．科学と人間 ４．自由の実現 ５．人間と幸福 ６．人間性の回復と主体性の確立 第３章 日本人としての自覚 １．古代日本人の思想と仏教思想の展開 ２．外来思想の受容と日本の思想	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a：青年の生き方に対する関心を高め、生涯における青年期の意義と自己形成の課題を意欲的に追究し、現代の社会に生きる青年としていかに生きるかについて考えようとしている。 b：青年の生き方から課題を見いだし、生涯における青年期のもつ意義と自己形成の課題について自らの人生や進路選択とかかわらせながら多面的・多角的に考察し、現代の社会に生きる青年としていかに生きるかについて社会生活の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、追究し考察した結果を口頭などで適切に説明している。 c：生涯における青年期のもつ意義と自己形成の課題、青年としていかに生きるかについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 d：生涯における青年期の意義と自己形成、望ましい職業観・勤労観や男女共同参画社会、社会参加などについて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート 授業態度 発問評価

1学期後半	第2部　現代の社会と人間	2　現代の民主政治と日本国憲法 第１章 現代国家と民主政治 １．民主政治の成立 ２．民主政治の基本原理 ３．民主政治のしくみと課題 ４．世界の主な政治制度 第２章 日本国憲法の基本的性格 １．日本国憲法の成立 ２．日本国憲法の基本的性格 ３．自由に生きる権利 ４．平等に生きる権利 ５．社会権と参政権・請求権 ６．新しい人権 ７．人権保障の広がりと公共の福祉	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a：近代政治と人権保障の歩みを理解し、国民主権・多数決・権力分立などの基本原理と政治制度の多様性をとらえている。また、現代の民主政治に対する関心を高め、基本的人権の保障、国民主権、議会制民主主義、平和主義などを意欲的に追究し、考えようとしている。 b：人権思想と近代国家の発展の歴史に関心をもち、人権尊重の視点から、民主主義の基本原理の特質を理解し、それらを文章などで適切に説明・表現している。また、現代の民主政治から課題を見いだし、民主社会において求められる価値や民主政治を基礎付ける考え方などについて多面的・多角的に考察し、民主政治の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、これらを考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 c：近代の人権思想の歩みと近代の民主国家の政治原理および現実の政治機構との関わりを、関連書籍や様々なメディアを通じて収集し、選択・活用している。また、現代の民主政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、収集した資料の中から民主社会において求められる価値や民主政治を基礎づける考え方などについて学習に役立つ情報を主体的に選択して活用し、追究している。 d：近代民主政治の歩みと歴史的宣言・文書を通じて、民主主義の原理の形成過程、基本的人権の保障と法の支配など、日本国憲法の基本原則について理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート 副教材の提出 授業態度 発問評価

2学期前半	第2部　現代の社会と人間	2　現代の民主政治と日本国憲法 第２章 日本国憲法の基本的性格 ８．平和主義とわが国の安全 ９．こんにちの防衛問題 第３章 日本の政治機構と政治参加 １．政治機構と国会 ２．行政権と行政機能の拡大 ３．公正な裁判の保障 ４．地方自治と住民福祉 ５．政党政治 ６．選挙制度 ７．世論と政治参加 3　現代の経済社会と国民生活 第１章 現代の経済社会 １．経済主体と経済活動の意義 ２．経済社会の変容 ３．市場のしくみ ４．市場の失敗	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a：現代の民主政治に対する関心を高め、民主政治における個人と国家の在り方や民主社会に主体的に生きる人間の在り方を意欲的に追究し、考えようとしている。 現代の経済社会における個人、企業や公的部門の経済活動に対する基礎的な内容について関心を高め、それを意欲的に追究し経済活動の意義について考えようとしている。 b：現代の民主政治から課題を見いだし、個人と国家の役割や民主社会に主体的に生きる人間の在り方について多面的・多角的に考察し、民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 現代の経済社会における個人、企業や公的部門の経済活動から課題を見いだし、消費者、納税者としての個人の経済活動における社会的責任について多面的・多角的に考察し、様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。 c：現代の民主政治とその課題に関する諸資料および、現代の経済社会における個人、企業や公的部門の経済活動の基礎に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、収集した資料の中から個人と国家の役割や民主社会に主体的に生きる人間の在り方および経済活動の在り方などについてについて学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 d：国民主権と議会制民主主義など日本国憲法の基本原則と世論形成や政治参加の意義、民主政治の課題について理解し、その知識を身に付けている。 現代の経済社会における企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働きなどについて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート 授業態度 発問評価

2学期後半	第2部　現代の社会と人間	3　現代の経済社会と国民生活 第１章 現代の経済社会 ５．現代の企業 ６．国民所得 ７．経済成長と国民の福祉 ８．金融の役割 ９．日本銀行の役割 １０．財政の役割と租税 １１．日本の財政の課題 第２章　日本経済の特質と国民生活 １．戦後復興から高度経済成長へ ２．安定成長からバブル経済へ ３．日本経済の課題 ４．日本の中小企業 ５．日本の農業 ６．消費者問題 ７．公害の防止と環境保全	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a：現代の経済社会における諸事情に対する関心を高め、個人や企業の経済活動における社会的責任について意欲的に追究し経済活動の在り方について考えようとしている。 b：企業の経済活動における法的・道義的責任について多面的・多角的に考察し、現代の経済社会における個人、企業の経済活動の在り方について社会の変化や消費者、生産者など様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、これらを追究し考察した過程や結果を口頭や文章などで適切に説明している。 c：現代の経済社会における個人、企業や公的部門の経済活動に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、収集した資料の中から個人や企業の社会的責任などについての学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 d：現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、公害の防止と環境保全などについて理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート 副教材の提出 授業態度 発問評価

3学期	第2部　現代の社会と人間　／　第3部　共に生きる社会をめざして	3　現代の経済社会と国民生活 第２章　日本経済の特質と国民生活 ８．労働問題と労働者の権利 ９．こんにちの労働問題 １０．社会保障の役割 １１．社会保障制度の課題 4　国際社会と人類の課題 第１章　国際政治の動向 １．国際社会と国際法 ２．国際的な人権保障と国際政治 ３．国際連合と国際協力 第２章　国際経済の動向と国際協力 １．貿易と国際収支 ２．外国為替制度のしくみ ３．第二次世界大戦後の国際経済 ● ２．個人の自由と持続可能な社会	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	a：労働問題や社会保障制度について、将来社会に出て労働者となる自覚のもとに、労働環境に関する諸問題や社会保障制度の諸問題を自らかかわる問題としてとらえている。 冷戦終結後の国際政治・経済に関する諸問題に対する関心が高まり、国際平和の必要性及び国際連合などの国際的な機構･組織の果たす役割や国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構･組織の果たす役割についてについて意欲的に追究し、国際社会における日本の責任と役割について考えようとしている。 b：冷戦終結後の国際政治・経済に関する諸問題から課題を見いだし、国際平和の必要性や国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構･組織の果たす役割について多面的・多角的に考察し、国際社会における日本の責任と役割について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断している。また、これらを追究し考察した過程や結果を文章などで適切に説明している。 c:冷戦終結後の国際政治・経済に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、収集した資料の中から国際平和の必要性や国際的な経済協力の必要性及び国際連合などの国際的な機構･組織の果たす役割について学習に役立つ情報を主体的に選択して活用している。 d:現代の経済社会における雇用と労働問題ついて理解し、その知識を身に付けている。 人権、国家主権、国際法などを理解し、その知識を身に付けている。 経済の国際化、労働力・資本・技術･情報などの地球規模での移動や貿易の拡大と不均衡、南北問題などを理解し、その知識を身に付けている。	定期考査 ワークシート 副教材の提出 授業態度 発問評価

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。